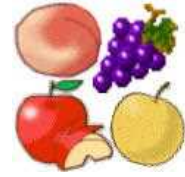




# 平成28年度 果樹情報 第1号

(平成28年4月5日)



福島県農林水産部農業振興課

## 1 気象概況 (3月：果樹研究所)

3月5半旬の平均気温は6.0℃で平年並、6半旬が8.6℃で1.9℃高く経過しました。3月下旬の降水量は1.5mmで、平年の5%でした。

## 2 発育状況 (果樹研究所)

- (1) なしの発芽は、「幸水」が3月28日で平年より5日早く、「豊水」が3月24日で平年より7日早い状況でした。
- (2) りんごの展葉は、「ふじ」が3月30日で平年より9日早い状況でした。

表1 発芽・展葉状況 (4月1日現在)

	発芽			展葉			
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	
もも	あかつき	3月19日	3月25日	3月22日	—	—	—
	ゆうぞら	3月20日	3月26日	3月21日	—	—	—
なし	幸水	3月28日	4月2日	3月29日	未	4月15日	4月6日
	豊水	3月24日	3月31日	3月28日	未	4月11日	4月2日
りんご	つがる	3月21日	3月26日	3月21日	未	4月10日	3月31日
	ふじ	3月21日	3月28日	3月22日	3月30日	4月8日	3月30日

注) 平年は1986～2015年の平均値。

## 3 開花予測 (果樹研究所)

今後の気温が平年並に経過した場合の開花始めは、もも「あかつき」が4月10日で平年より4日、なし「幸水」が4月19日で平年より2日、りんご「ふじ」が4月24日で平年より2日早いと予測されます。

なお、この時期の生育は直前の気温の影響が大きいため、今後の気温の推移により大きく変動する可能性があるため注意が必要です。

表2 開花予測日 [予測方法：発育速度 (DVR) モデルによる発育予測]

	開花始め		今後の気温経過と開花予測日			
	昨年	平年	平年並	2℃高い	2℃低い	
もも	あかつき	4月12日	4月14日	4月10日	4月8日	4月11日
なし	幸水	4月17日	4月21日	4月19日	4月15日	4月23日
りんご	ふじ	4月22日	4月26日	4月24日	4月20日	4月28日

注) 開花始めの平年は1986～2015年の平均値。

### 東北地方1か月予報(仙台管区气象台 平成28年3月31日発表)より

今後の気温の経過は、1週目（4月2日～4月8日）は高い確率が80%、2週目（4月9日～4月15日）は高い確率が70%、3～4週目（4月16日～4月29日）は平年並または高い確率ともに40%となっています。

※ 気象庁では「天気予報」以外にも下記の情報も発表しておりますので、これらも参考にして管理作業や防霜対策を進めましょう。

#### ○季節予報

1か月間や3か月間といった期間全体の大まかな天候を3つの階級で予報しています。

URL: <http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/>

#### ○最高・最低気温分布予想

一辺20kmの正方形のマス目にわけて、そのマス目の中の代表的な気温などを予想しており、翌日朝の最低気温の予想などが表示されます。

URL: [http://www.data.jma.go.jp/fcd/yoho/data/kouon/t\\_maxmin.html](http://www.data.jma.go.jp/fcd/yoho/data/kouon/t_maxmin.html)

## 4 栽培上の留意点

### (1) 防霜対策

生育が進むにつれ耐凍性が低下し、凍霜害の危険性が高くなりますので、気象情報には十分注意し、防霜対策を徹底しましょう。生育は平年に比べ5～9日程度進んでいます。また、1か月予報によれば、気温が高く推移する可能性が高いため、開花予測（表2）の2℃高い場合を想定して、生育ステージごとの安全限界温度以下に遭遇するおそれがある場合には速やかに防霜対策を実施してください。

事前対策として、防霜資材の手配と準備を万全にするとともに、地温の上昇を図るため、4月上旬以降に下草を5cm程度に刈り込みましょう（地際部まで刈ると放射性物質をまきあげるおそれがあるので注意しましょう）。

また、空気や土壌が乾燥している場合は気温の低下を助長するため適宜かん水を実施し、土壌水分の確保に努めましょう。

なお、降霜による被害が見られた場合は、被害状況を確認のうえ、人工受粉を徹底し結実を促しましょう。

### (2) 結実確保対策

果樹の開花は、直前の気温に大きく影響されるため、今後の気温の推移に十分注意し、訪花昆虫の手配、開やく作業の準備、人工受粉時の労力確保等を計画的に行いましょう。

## 5 病虫害防除上の留意点

### (1) 病害

#### ア りんご腐らん病

伝染源となる枝腐らん、胴腐らんの発病部位は確実に削り取るかせん除し、塗布剤を塗りましょう。

なお、伐採した被害枝幹及び削り取った病患部は園内に放置せず適切に処分するほか、展葉初期の防除も徹底しましょう。

#### イ ももせん孔細菌病

秋期の新梢葉での発病も多発したことから、開花直前の薬剤散布を徹底し、感染防止を図りましょう。また、春型枝病斑やこれに類似する疑わしい枝枯れ等は、見つけ次第徹底してせん除しましょう。なお、果樹研究所内では既に春型枝病斑の発生が確認されています(図1)。



図1 ももせん孔細菌病の春型枝病斑(品種: ゆうぞら・3月28日撮影)

#### ウ なし黒星病

この病害は前年の被害落葉や罹病芽(りん片)が伝染源となり、開花前から胞子を飛散させるため、発芽1週間後頃の防除を徹底し、初期感染の防止に努めましょう。

### (2) 虫害

#### ア モモハモグリガ

今後の気温が平年並に経過した場合、越冬世代成虫の誘殺盛期は4月17日頃と予測されるため、防除適期は4月5半旬~6半旬と推定されます。なお、今後の気象経過により防除適期も変動するため、落花10日後頃を目安に防除を実施してください。

#### イ リンゴハダニ

今後の気温が平年並に経過した場合、リンゴハダニのふ化盛期は4月19日頃と予想されます。越冬卵密度の高い園では、落花後以降の発生密度に注意し、要防除水準(1葉当り雌成虫1頭以上)に達したら殺ダニ剤を散布してください。

#### ウ リンゴモンハマキ(もも、なし)

今後の気温が平年並に経過した場合、越冬世代成虫の誘殺盛期は5月18日頃と予測されます。昨年、発生が多かった園では、越冬世代の密度低下に努めましょう。この害虫は枯れ葉を枝等に貼り付けた中にマユを作り、若齢幼虫態で越冬するので(図2、3)、摘らい作業などと平行して越冬マユの除去を行ってください。越冬量の多いもも園では、開花10日前頃に必ず防除を実施します。なお、有機リン剤等の訪花昆虫に対して影響がある剤を使用する場合は散布時期に注意してください。

表3 果樹研究所における主要害虫の誘殺盛期等の予測  
(演算方法は三角法・平成28年3月31日現在)

今後の気温予測	モモハモグリガ	リンゴハダニ	リンゴモンハマキ
	越冬世代 誘殺盛期	越冬卵 ふ化盛期	越冬世代 誘殺盛期
2℃高い	4月14日	4月15日	5月10日
平年並	4月17日	4月19日	5月18日
2℃低い	4月23日	4月26日	5月30日

起算日：3月1日



図2 リンゴコカクモンハマキ越冬場所



図3 枯葉中のリンゴコカクモンハマキ越冬虫（枝に貼り付いた枯葉）

**病害虫の発生予察情報・防除情報**

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7344  
(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>